

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第10号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第10号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R6 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R6 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	27.6	2.2	29.2	30.6	1.4	22.4	25.1	2.7	90.3	147.5	163.3	16.3	21.4	131.3
	2	26.1	29.3	3.2	30.1	32.4	2.3	23.0	26.9	3.9	83.2	2.5	3.0	20.3	33.5	165.0
	3	26.7			30.9			23.5			61.9			24.2		
	4	27.3			31.8			23.9			43.1			28.0		
	5	27.7			32.5			24.2			36.2			31.4		
	6	28.1			33.0			24.5			39.2			41.0		

○7月2半旬の平均気温は、平年に比べて3.2°Cほど高く推移した。また、降水量は少なく、日照時間は平年比165%となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月11日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 6/20 移植 武雄市橋町 ※2	本年値	37.3	242	7.7	41.8	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く 茎数は平年より多い。 主稈出葉数は平年より0.6葉少ない。 葉色は濃く、SPADは平年より2.4高い
	前年値	36.2	183	7.4	38.2	
	平年値 ※2	34.5	188	7.1	39.4	
	平年比	108	128	0.6	2.4	

※1 さがびよりの平年値はH21～R5の平均値
※2 本年移植日6月20日 平年移植日6月22日

3. 管内の生育状況（7月12日時点）

- 七タコシヒカリ：現在、乳熟期頃となっている。
 本年は早いところで6月25日出穂し、出穂盛期は6月26日～28日となった。
 なお、**情報田の出穂期は6月28日となり、平年並みとなった。**
 積算気温から予測される収穫適期は7月28日～8月2日頃である。
- 普通期水稻：現在、分けつ期である。
 移植後から断続的な降雨による深水と寡照傾向で推移しているため、草丈が伸長し、軟弱徒長ぎみの生育である。
- その他特記事項
 - まとまった降雨により、常時深水状態の圃場においては、スクミリンゴガイによる**食害等**の被害がみられる圃場もある。

4. 今後の管理

1) 七夕コシヒカリ

(1) 水管理

- ・「コシヒカリ」は、乳熟期を迎えている。なお、積算温度による刈取り積算目安表は別紙参照。
- ・水管理は、根への酸素供給を図るためにも常時湛水するのではなく間断灌水（潤土管理）を行う。ただし、玄米の品質低下を避けるため、土壌表面が白乾しないように、好天が続く場合は必ず走り水を行う。また、早期の落水は粒の充実不足、品質低下につながるため、収穫7日前ごろまでは間断灌水を続ける。

(2) 病虫害防除

- ・「七夕コシヒカリ」は県特別栽培農産物に応じた栽培を取組んでおり、農薬成分回数9成分を超えないような栽培管理が重要である。

① 斑点米カメムシ類

- ・病虫害発生予察7月予報（6月27日付け佐賀県農業技術防除センター発表）」では、斑点米カメムシ類の発生は「やや多」である。
乳熟期（穂先がちょっと傾いたころ：穂揃期の約10日後）の時期には薬剤防除を実施する。
なお、七夕コシヒカリは特別栽培認証制度に応じた栽培法を実施しているため、農薬散布にあたっては農薬成分回数9成分を超えないように注意する。

② いもち病

- ・葉色が濃く生育旺盛の圃場においては要注意である。

2) 普通期水稻

(1) 水管理

- ・移植後の断続的な降雨による深水、寡照により、草丈が伸長し、軟弱徒長ぎみの生育である。
- ・除草剤処理から7日経過したら、半日～1日程度の落水を行い、浅水管理に移行する。
- ・麦わらすき込み及び麦収穫前に打ち込みを行った圃場でガスの発生が著しい場合は、「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。（表1参照）
- ・移植後、降水量が多く、場合によっては除草剤の効果が十分発揮できていない圃場は、中後期除草剤の対応も視野に入れる（剤によっては収穫前日数に留意して使用する）

〈表1 ガス（湧き）発生程度及び対策〉

湧きの程度	様相とガス程度水稻への影響	水稻への影響	ガス対策（7月上旬以降）
稀	足を踏み込んでも気泡なし	なし	必要なし
少	足を踏み込むとわずかに気泡が見られる	なし	必要なし
中	足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	落水後に用水更新
多	足を踏み込むと盛んに気泡を発生	根張り不良	落水後に用水更新を繰り返し
甚	晴天時自然に気泡発生する（ぱちぱちと音が聞こえる。）水田歩くと著しく気泡発生。	根伸長阻害、黄化	中耕と用水更新を繰り返し 回復後には、間断灌水（本格的夜干）



手を田んぼに入ると、気泡（ガス）が激しく発生する

⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の葉先に褐色の斑点が発生する。

- ・移植後、気温は高く推移したことで雑草発生が早く、場合によっては除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も確認されている。特に「ホタルイ」の発生を確認する。その場合、中後期除草剤の対応も視野に入れる（剤によっては収穫前日数に留意して使用する）
- ・中干しの草丈の目安は、「夢しずく」が45～55cm、「ヒノヒカリ」は40～50cmの間が目安である。（茎数の多少はあるが、この時期以降の分けつ茎は穂にならないため。）
いもち病が多発している圃場では、強い中干しは避けるようにする。

（参考）中干し作業の効果と時期

（1）中干しの効果

- 1) 無効分けつの発生防止→1茎の充実、茎を太く揃える
- 2) 下位節間の伸長防止 →稈長を長くしない、倒伏防止
- 3) 窒素の制限 →過剰繁茂防止、草型を整える
- 4) 有害物質の除去 →根の活力低下防止
- 5) 土壌に酸素供給 →根の健全化、根の量の増加
- 6) 株支持力の増加 →倒伏防止
- 7) 圃場管理が容易 →田圃に入っても歩いてもきつくない
コンバインが入れるよう地耐力高める

（2）中干しの実施時期の目安

→総葉数の7割～8割の葉が出た時の間、10葉期頃、田植後35日を中心に行う。

有効分けつ決定期（株当たり小さい分けつまで20本）

～穂首分化期（穂の基が茎の中で出来る時）である。

また、開始時期の目安は、移植時期によって異なるが、有効茎（1株あたり20本程度の分けつ）が確保でき、株が開張しておおむね草丈が35～50cmを目途に実施する。

（3）中干しの期間と程度（強弱）

中干し期間は5～7日だが、天候や土壌の種類、漏水の程度などによって変わってくる。

圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらい。

つまり「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける硬さ」が理想である。

しかし生育量や葉色によっても加減が必要である。

指先が縦にはいるようなヒビ（強い中干し）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなる。

白乾するような強い中干しは行わない

（2）病虫害防除

- ・7月の病虫害予察情報（6月27日付け佐賀県農業技術防除センター発表）によると主要病虫害の発生量は以下のとおり。

《表2 7月の病虫害予察情報》

作物名	病虫害名	平年比
水稻 (早期)	穂いもち	並
	紋枯病	やや多
	斑点米カメムシ類	やや多
水稻 (普通期)	葉いもち	並
	トビイロウンカ	並
	セジロウンカ	並
	コブノメイガ	並

①いもち病

【普通期水稻】

- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・葉いもちの発生に注意して観察し、進展型病斑が認められれば早急に臨機防除を実施する。
その場合、オリブライト粒剤等を使用する（ただし農薬摘要に留意する）
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- ・BLASTAM 情報は別紙参照。BLASTAM（ブラスタム）は、いもち病菌の感染に適した条件が表れたかを判定するモデルである。ブラスタムで好適条件が現れた場合、約1週間後からいもち病の初発あるいは病斑数が急激に増加することが予測されるので注意する。

BLASTAM情報第5号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2024年7月10日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7日	-	-	-	-	-	●	●	-	1	-
	8日	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9日	4	●	-	●	-	●	●	●	●	-
	10日	●	●	-	-	-	●	●	●	●	-
	11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20日	-	●	-	●	●	-	-	2	4	-
	21日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	22日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	23日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	24日	●	-	-	-	-	-	●	●	-	-
	25日	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
	26日	●	●	-	●	-	2	●	-	●	●
	27日	●	-	●	●	●	2	-	-	●	●
	28日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	29日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	30日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月	1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2日	●	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3日	-	-	-	-	-	-	?	-	-	
	4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）

2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）

3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）

4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）

●：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）

-：好適条件の出現なし

?：判定不能

② ウンカ類

- ・本年は、平年に比べ13日遅い、6月17日に梅雨入りとなり、梅雨前線に伴い海外飛来性害虫であるウンカ類が誘殺されている。トラップ調査や気象解析の結果から6月23日～24日頃に主な飛来があったと考えられる。嬉野市の予察灯の誘殺数は過去10年で最も多い状況となっている（表3参照）。なお、最新情報は、佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照すること。
- ・今後の飛来状況や圃場での発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）

によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。

《表3 海外飛来性害虫情報》

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ				
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県		
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市
		ネット トラップ*	ライト トラップ*	ライト トラップ*	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ*	ライト トラップ*	ライト トラップ*	ネット トラップA	ネット トラップB
5月	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
	27日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0
	20日	0	3	0	0	0	0	10	2	0	0
	21日	0	8	0	0	0	0	25	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0
	23日	0	24	0	0	0	25	66	8	1	1
	24日	0	14	0	0	0	13	92	5	0	2
	25日	0	1	0	0	0	0	148	1	0	0
	26日	0	9	0	0	0	0	187	0	0	0
	27日	0	3	0	0	0	2	8	0	0	0
	28日	0	7	0	0	0	0	30	4	0	0
	29日	0	4	0	0	0	3	31	2	0	0
	30日	0	13	0	2	0	15	5	0	3	0
7月	1日	0	229	0	0	0	14	88	0	1	0
	2日	0	41	0	0	0	0	97	0	0	0
	3日	1	欠測		0	0	1	欠測		0	0
	4日	0	5		0	0	0	3		0	0
	5日	0	0		0	0	5	9		1	0
	6日	0	0		0	0	0	5		0	0
	7日	0	0				0	0			
	8日	0	1				2	1			
	9日	1	0				0	0			
	10日	0					1				

※7月11日管内巡回結果

調査日	セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ		備考
7月11日	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
6/14移植	42	2	0	0	2	0	夢しずく（江北町） ※ゼクサロン系無施用
6/20移植	0	2	0	0	0	0	さがびより情報田

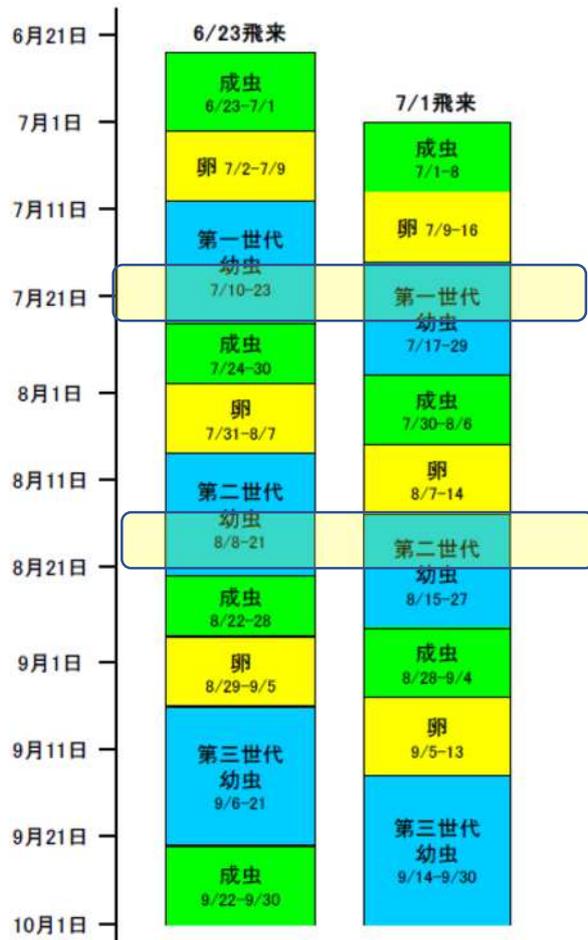
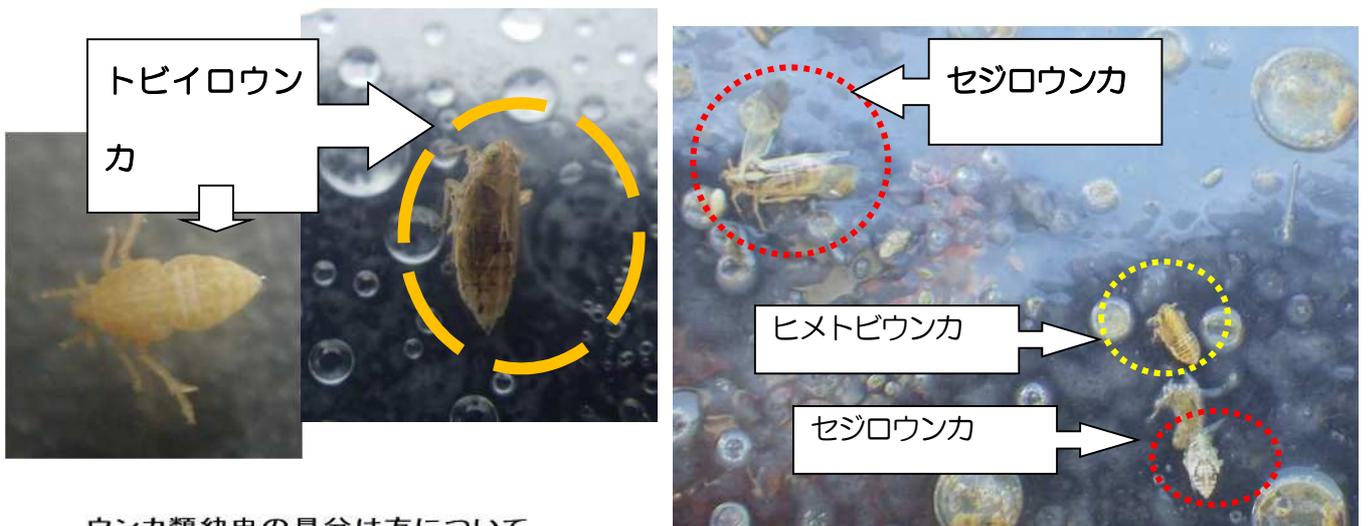


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2024年7月4日作成)

- 6月23日～24日頃(図では6月23日)、7月1日～2日(図では7月1日)の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ(7月4日以降は平年値)に基づき作成した。
- 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
- 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	○ : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	○ : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	○ : 斜め後ろ

令和6年産「セタコシヒカリ」収穫適期予想表（アメダス観測地、白石）

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会作物部会
杵島農業改良振興センター
令和6年7月12日現在

月	日	平均気温		出穂期				
		平年	R6	6/24	6/26	6/28	6/30	7/2
6	24	24.0	24.1	出穂期				
	25	24.2	23.4	23				
	26	24.3	22.1	46	出穂期			
	27	24.4	22.5	68	23			
	28	24.6	24.3	92	47	出穂期		
	29	24.8	24.8	117	72	25		
7	30	24.9	28.2	145	100	53	出穂期	
	1	25.1	25.6	171	125	79	26	
	2	25.2	27.4	198	153	106	53	出穂期
	3	25.4	28.9	227	182	135	82	29
	4	25.5	28.1	255	210	163	110	57
	5	25.7	28.1	283	238	191	138	85
	6	25.8	29.4	313	267	221	168	115
	7	25.9	29.5	342	297	250	197	144
	8	26.1	29.6	372	326	280	227	174
	9	26.2	29.6	402	356	309	256	203
	10	26.3	28.4	430	384	338	285	232
	11	26.5	24.9	455	409	363	310	257
	12	26.6		481	436	389	336	283
	13	26.7		508	463	416	363	310
	14	26.8		535	489	443	390	337
15	26.9		562	516	470	417	364	
8	16	27.1		589	543	497	444	391
	17	27.2		616	571	524	471	418
	18	27.3		643	598	551	498	445
	19	27.4		671	625	579	526	473
	20	27.5		698	653	606	553	500
	21	27.6		726	680	634	581	528
	22	27.7		754	708	661	608	555
	23	27.7		781	736	689	636	583
	24	27.8		809	764	717	664	611
	25	27.9		837	792	745	692	639
	26	27.9		865	819	773	720	667
27	28.0		893	847	801	748	695	
28	28.1		921	876	829	776	723	
29	28.1		949	904	857	804	751	
30	28.1		977	932	885	832	779	
31	28.2		1005	960	913	860	807	
8	1	28.2		1034	988	941	888	835
	2	28.2		1062	1016	970	917	864
	3	28.3		1090	1045	998	945	892
	4	28.3		1118	1073	1026	973	920
	5	28.3				1054	1001	948
	6	28.3				1083	1030	977
	7	28.3					1058	1005
	8	28.2						1033
	9	28.2						
	10	28.2						

4月6日移植→出穂期6月28日頃

◎ コシヒカリ収穫適期の目安

● 積算気温による目安

最低 850℃

~

最高 930℃



<収穫のポイント>

- 積算表はあくまで目安です。
- 収穫は、圃場での熟れ具合を確認したうえで、作業日を決定してください。
- 早期落水すると充実不足による「ヤセ米」や「屑米」、「死米」が発生し、品質低下を招くため、収穫1週間前までは必ず間断灌水を実施し、根の活力維持に努めてください。
- 麦などの異種穀粒や異物が混入しないよう、収穫作業前には、必ずコンバインや乾燥機の清掃点検を実施してください。
- 「セタコシヒカリ」の収穫は、高温条件での作業となり、ヤケ米発生が懸念されるため、一次堆積時間(トラックやコンテナでの堆積時間)はなるべく長くならないよう、作業を進め、収穫された籾は速やかに通風・乾燥してください。



<収穫適期の目安>

・籾水分27~28%（穂軸の先端(穂先)から1~2cmが枯れ、穂元の青籾が5~7粒残っている状態で、籾をツメで押してもつぶれなくなった時。籾水分が25%未満(積算気温で1,000度以上)になると刈遅れによる品質低下が懸念されます)

・収穫時期の気温が高い「セタコシヒカリ」では、普通期水稲よりも籾水分の低下が早く、刈遅れによる品質低下が懸念されるため、収穫前は圃場での籾の籾水分の推移を注視しながら、収穫適期を判断してください。

・早刈りすると「青未熟粒」や「死米」の発生による品質低下だけでなく収量も低下し、また、遅刈りすると「胴割米」や「茶米」等の発生による品質低下を招きます。高い品質と収量を確保するため、適期収穫に努めてください。

4. 大豆の管理について

- 収量・品質を確保するには、播種時期にあった苗立ちを確保することが最も重要となる。
平坦部では7月上中旬を播種適期としているので、降雨後、圃場が播種作業のできる状況になり、苗立ちが確保できる天気予報であればすみやかに播種を行う。なお播種に当たって留意点は以下のとおりである。

(1) 梅雨の間の播種対策

- ①トラクタで耕起可能な状態になれば直ちに耕起し播種を行う。
- ②天候が変わりやすい場合は、荒耕起を行わず、不耕起播種や部分浅耕播種技術、逆転ロータリを用いた一工程播種等技術の積極的な活用や、組み作業等による効率的で、迅速な播種に努める。
- ③一般に晴天が続く場合は、除草や碎土のための荒耕起後に耕起・播種（2工程）する。
※播種後、大雨が予想される場合は播種を行わない。大豆は播種後2日間の酸素要求度が非常に高いため、播種後2日間は降雨により浸水しないことが苗立確保のポイントとなることを留意する。

(2) 梅雨明け後の播種対策

- ①トラクタで耕起できる程度に圃場が乾いたら、耕起の上、直ち（土壌水分が保持されているうちに）に播種する（可能であれば午後から耕起し、夕方播種するようにする。梅雨明け後、晴天が続くようだと土壌が過乾燥となり、発芽率が低下する。）。極端な浅播きは避ける。
- ②梅雨明け後速やかに出芽しない場合は、種子の活力低下と高温障害により、土壌中で種子が腐敗しやすく、発芽率が劣りやすいため、キヒゲン等の種子粉衣を必ず行う。

(3) 共通対策

- ①播種後降雨の恐れがある場合は、覆土は2cm程度に浅くし、播種後の鎮圧は行わない。また降雨後種子が水没しないよう、平播きにせず畦立てを行い、畦溝が排水路につながるよう明渠（作溝）を施工する。
- ②播種後、好天が続くと思われる時の覆土は、碎土率を高め4cm程度に厚めにし、鎮圧を行う。
- ③播種期別の播種量は下記のとおりであるが、碎土率によっては発芽率が劣るので、播種量を多くする等の対策を講じる。

(播種期別、播種量の目安)

播種期 (月/日)	栽植本数 (m ² 当たり)	栽植本数 条間×株間×1株本数	播種量目安 (kg/10a)
7/1～7/5	10本	75cm×25cm×2本	3.2kg
7/6～7/15	13本	75cm×20cm×2本	4.0kg
7/16～7/25	18本	75cm×15cm×2本	5.3kg